



子どもたちへのメッセージ 「夢は一生持ち続けるもの」～星空に憧れて～

八束天体観測所・
松江星の会
安部 裕史
(八束町二子在住)

私は小学生の頃から星が大好きで、今でも星の観測を続けています。いつから星が好きになったのか？確実に覚えているのは小学5年生の頃のことです。父に自分で組み立てる紙筒の天体望遠鏡(いわゆるキットです)を買ってもらい、その望遠鏡で見た月の様子を今でも鮮明に覚えています。

就職を機に大根島に帰ってきてからは小さな観測所を設けました。はじめは天体写真などを撮影していたのですが、ある頃から「科学に貢献する観測」「新天体の発見」を思うようになりました。特に「新天体の発見」は小学生の頃からの憧れでした。そこでめざしたのが小惑星の発見です。小惑星は太陽の周りをまわる小さな天体で、28個の小惑星を見つけることができました。発見した小惑星の命名提案権は発見者にあり、1993年10月に初めて見つけた小惑星に「Yatsuka八束」と命名しました。この星は太陽の周りを3.67年で回っています。また、2007年8月には「Nova Vul 2007 こぎつね座新星2007年」を発見しました。この発見は世界で単独発見だったこともあり、日本天文学会からは表彰状と記念メダルをいただきました。この記念メダル、小学生の頃からの憧れのメダルで東京での表彰式は夢心地の気分でした。

そんな星が大好きな私ですが、その源流は離島だった八束町での生活だったように思います。中海の向こうに見える地はいつも憧れの対象でした。そんな憧れが空に輝く星への興味を駆り立てたのかもしれませんが、また、保育所・小学校・中学校と長年いっしょだった友人には、星やラジオ(BCL)などが大好きな理科少年たちがいました。今でも島の時代にいっしょに遊んだ友人との出会いは懐かしくうれしいものです。

島の生活で培われた感性が今の自分を作ってくれているように思います。私を育ててくれた八束町や友人たちに感



山すそに見える星は、りゅうこつ座 α 星「カノープス」です。中国の伝説では南極老人星とよばれ、この星を見つけたら長生きできると言われています。波入港親水公園で見ることができます。(2019年冬に撮影)

(7097) Yatsuka = 1993 TF
Discovered 1993 Oct. 8 by H. Abe and S. Miyasaka at Yatsuka.
Named for the first discoverer's home town, in the eastern part of Shimane prefecture, known for its production of ginseng and peonies.

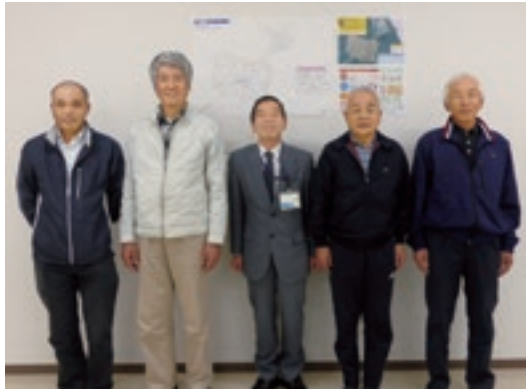
小惑星(7097)Yatsukaの命名文。全世界に公表されています。
(1996 OCT. 26 M.P.C.28090から引用)

謝するとともに、これからの八束町をつくっていく子どもたちに「夢は一生持ち続けるもの」という言葉を送ります。ちなみに、私が一生かかっても実現したい夢は「新彗星の発見」です。もちろん小学生の頃からの夢の続きです。

特集
第12回
座談会

地域防災を考える②
『自主防災隊の活動』

自主防災組織は、町内会や自治体の単位で、地域住民が連携してできた防災の任意団体です。災害からの救助では、近所や友人同士で助け合うことが重要と言われていきます。本日は、防災への取り組みについて、市防災担当参事と4地区の自主防災隊長(区長)による対談を行いました。(新型コロナウイルス感染症対策に配慮して実施。)



〈左から(敬称略)〉岩田卓美、豊島 耕、竹中敏博、安部 弘、門脇昭弘



竹中 敏博さん
(市防災担当参事)

災害の役割は、災害が発生する前と、災害が発生した後の2つに大きく分けることができます。最初に、災害が発生する前の各地区で毎年実施している訓練や活動、そして構成員などについてお聞かせください。



安部 弘さん
(二子)

安部：自主防災隊の構成員は、波入地区同様に、自治会役員、民生委員、福祉推進員で構成しています。平時の活動として、避難訓練は自治会連合会主催の訓練に参加しています。また、災害への備えとしての空き家調査については、毎年12月に自治会区会議員にお願いして実施しています。

岩田：永年、避難訓練、消火訓練を実施していますが、最近2年間は、コロナの影響で主だった訓練ができませんでした。組織については他地区と同様です。

門脇：毎年、自治連主催の避難訓練に参加していますが、コロナ禍で

要配慮者への対応
竹中：次に、災害が発生した後の活動は、倒壊した建物に取り残された人の救出や救護、避難所までの誘導、市などへの情報伝達等があります。特に、災害時には、高齢者、障がい者、乳幼児など要支援者の配慮が必要です。市では、各地域に要配慮が必要な方を把握するための組織づくりや、運営支援を行っています。八東町も平成24年から順次「要配慮者支援会議」が設置されています。各地区の要配慮者への対応をお聞かせください。



門脇 昭弘さん
(亀尻)

訓練ができませんでした。自主防災隊の構成員は、自治会役員、民生委員、福祉推進員で、地区消防団と連携しています。

自主防災隊の活動状況

竹中：今年4月、島根町加賀の大火災、また近年全国的に大規模災害が頻発しています。そうした中、阪神淡路大震災の教訓から、各地区で結成され地域で支え合う「自主防災隊」の役割が益々重要となっています。本日は、町内4地区の隊長(区長)さんにお集まりいただき、各地区の活動についてお伺いします。自主防

豊島：自主防災隊は、避難誘導班、給食給水班、消火班、救出救護班とし、自治会役員、民生委員、福祉推進員で構成しています。コロナ禍の中、地域住民を集めるの訓練はできませんでしたが、昨年に続き、11月6日に自治会役員を対象に、自主防災組織のあり方等について、市の出前講座を開催したところです。

安部：地区内で要配慮が必要な方については、毎年区会で相談しながら確認しています。また、神社清掃など老人会の方が集まる時に安否の確認、夜に家の明かりがつかない時や、自動車、自転車の動きがない時などは確認するようにしています。日常的な

声掛けは、毎月の広報誌等の配布時に声掛けを行っています。



豊島 耕さん (波入)

豊島：福祉推進員6名と民生委員2名の方を中心に見守り活動をお願いしています。また、65歳以上の独居者で支援が必要な方の名簿を作成するとともに、今年はコロナ禍のため今のところ「どげな会」の開催を見送っていますが声掛けは実施しており、その際市が行っている「かかりつけ医療機関緊急連絡先」などの救急医療情報を入れたケースを冷蔵庫前への貼り付けを勧めています。

門脇：亀尻では、地区自主防災隊員の登録申請書兼登録台帳を作成しています。要配慮者への取り組みとして、地区独自の名簿を作成し対応しています。安否確認については、隣組の皆さんや民生委員の協力を得ながら行っています。

岩田：コロナ禍のため「どげな会」の開催はできませんが、高齢者のみの世帯への日常的な声掛けや見守り活動は、高齢の皆さんに

とって安心感のある対応として、女性の区会議員さんが中心になつて活動しています。



遅江地区 自主防災隊 災害通報訓練

活動を行う上での課題等

竹中：八束地区の自主防災隊は平成20年～22年に、要配慮者支援会議は平成24年～27年に設置されています。近年、全国各地で豪雨・風水害、地震などの大規模災害が頻発しています。活動を行う上で課題があればお聞かせください。

豊島：自主防災隊は、自治会役員を中心に、各種団体と連携して進めるよう組織化しています。ただ、各種団体は役員等が継続して取り組んでいただけると、自治会役員は毎年交代するので、継続性が担保されない課題があります。

門脇：どこの地区も高齢化は一緒だと思いますが、特に亀尻地区は小

さな集落ですので、隣組の機能低下が心配です。

安部

：災害時用の必要備品ですが、最低限必要な備品は何か教えてほしいですね。課題と言えば、区会議員を含めて、毎年替わるので防災に対する意識が薄いと感じます。話は変わりますが、県道美保関八束松江線（北岸道路）沿い等に、中海の水位が高くなつた時に、島内に逆流しないよう国と市が設置した樋門があり、地元の人に管理が委託されています。近年、異常気象の影響でしようか、中海の水位が上昇する機会が多くなっています。管理を任せられた人は、昼夜を問わず出勤していると聞きます。こうして災害を未然に防ぐ仕事をされている方々に感謝申し上げます。



岩田 卓美さん (入江)

岩田：樋門について確認したところ、国と市合わせて37か所あるようです。中海に影響をもたらす斐伊川水系での豪雨時や、高潮時に閉めており、開閉回数も多くなっているようです。感謝申し

上げます。災害時用備品については、簡易発電機、LEDライト、メガホン、スコップ、ナタ、ハンマー、ガソリン携行缶、簡易式テント等を備えています。

豊島

：波入地区は、災害時用の備品として、車イス、担架、簡易式テント、ポータブルトイレ、懐中電灯、拡声器、常備食等を備えています。

竹中

：災害時の必要備品については、特に定めておりませんが、入江・波入地区を参考にされては良いかと思えます。住民の皆様には、平素から「非常持ち出し品」や「非常備蓄品」の準備をお願いいたします。なお、平素からできる事柄等についての「出前講座」もごさいますので、お気軽にご相談ください。最後に、訓練等は継続してできる事項から広げていただけたらと思います。本日は、お忙しい中、ありがとうございます。ございました。

《座談会 メンバー》

- ① 市防災安全課 防災担当 参事 竹中 敏博
- ② 波入地区自主防災隊長 区長 豊島 耕
- ③ 入江地区自主防災隊長 区長 岩田 卓美
- ④ 二子地区自主防災隊長 区長 安部 弘
- ⑤ 亀尻地区自主防災隊長 区長 門脇 昭弘

中村元博士が残した『慈しみあふれる言葉』を紹介します⑥

松江市出身でインド哲学・仏教学の世界的権威、中村元博士が残した慈しみあふれる言葉を、八東町中央の「八東複合施設」正面玄関東横にある掲示板で毎月紹介します。掲示内容は「中村博士自身が述べた言葉」の中から、中村元記念館の加藤千乃学芸員が選び、公民館で書道を学ぶ「中央書道サークル（橘淳子代表）」のメンバーが中心となって毛筆でしたためます。



(左から)講武直樹 副市長、平林 剛 副市長

令和三年八月掲示

協和をめざす

中村元のことば

【出典・解説】
中村元博士が著書「仏典のことば」Ⅱ政治に対する批判『究極の平和』で述べた言葉。
『仏教は慈悲の宗教である以上、究極においては平和ということが第一の理想でなければなりません。今の西洋諸語における「平和(peace)」をインド人は、サンスクリット語および現代インド諸語の「シャーンティ(santi)」という語で表明しています。この語は漢訳仏典で「静寂」と訳されるものです。古来の仏教は端的に平和を理想としていたということが出来ます。協和をめざすのです。』
(中村元「仏典のことば」現代に呼びかける智慧」より。)

令和三年九月掲示

一期一会

中村元のことば

【出典・解説】
中村元博士が著書「人生を考える」で述べた言葉。
『生きている限り、縁があつて付き合ひのあつた人に対して、有難いと思つて生き、そして死んでいく。これは「一期一会」という言葉でも表現できると思ひます。茶道でいう意味とは少し違ひますが、人にばつたり会ふというのもよくよくの縁であるということですね。そこでは、自分を超え、他人との対立を超え、死をも超えて、ただ自分が今ここに生きていけるのちを有難く思うということ。』
(中村元「人生を考える」より。)

令和三年十月掲示

招提

中村元のことば

【出典・解説】
「現実の世界においては、どうしても狭い人間関係というのが支配します。これは当然です。しかし理想のあり方としてはあまねく四方に及ぶ。出家者は区々たる民族の差とか、生まれ故郷とか、自分の出た階級とか、そういうことにとらわれないで、四方をもつて我が家とする。これは非常に崇高な理想だと思ひます。一招いて、そして引つ提げると、四方の人に、皆さんいらつしやい、一つになりましよう、何かそういう連想を働かせられます。』
※招提(しょうだい)とは、パーリ語(古代インドの言語)で、四方の人を意味するチャートウッディサを漢訳した言葉。
(中村元「温かなこころ」より。)

令和三年十一月掲示

万人の友

中村元のことば

【出典・解説】
中村元博士が著書「仏典のことば」で述べた言葉。
「だから心に好意をたもつことによつて、あらゆる人の友でありたいと願うのです。
『われは万人の友である。万人のなかまである。一切の生きとし生けるものの同情者である。慈しみの心を修めて、無傷害を楽しむ。』(テーラ・ガーター「仏弟子の告白」)
生きるものを傷つけないということを楽しむ、ということ。』
(中村元「仏典のことば」より。)

あとがき

大根島⑥ 「6次産業」

今、農林水産省が主体となり、各地で6次産業化の取り組みがなされています。

昭和30〜40年代頃の雲州人参生産農家(1次産業)は、海外市場で高値取引される商品「紅参こうじん」にするため、自宅で蒸して乾燥加工(2次産業)し、輸出品として自ら香港等のバイヤーと価格交渉を行い、販売(3次産業)していました。結果、加工賃や流通マージンを確保するとともに、高品質、高価格のブランド品として、地域経済に大きく貢献しました。

当時、国の農業政策は、戦後復興の食糧事情から、稲作等の主要農産物への支援(補助金等)が主でした。そうした状況の中、大根島には小ロット農産物を活かす知恵者が大勢いました。
(池)